別記第1号様式（第7関係）

会　議　録

附属機関又は会議体の名称		令和７年度 第３回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局（担当課）		庶務課
開　催　日　時		令和７年１２月２５日（木）午前１０時００分～午前１１時００分
開催場所		豊島区役所　教育委員会室（本庁舎８階）
議　　題		評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 （１）「確かな学力」育成事業 （２）　日本語指導事業
公開の可否	会　議	■公開　□非公開　□一部非公開　　傍聴人数　０　人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	■公開　□非公開　□一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委　　員 （敬称略）	宮澤　晴彦 伊東　哲 北川　英恵
	その他	教育長、教育部長、学務課長、学校施設課長、指導課長、学校支援担当課長、図書館課長、教育センター所長
	事務局	庶務課長

審　議　経　過

発　言　要　旨

1．開会

2．議事

（1）評価対象事業のヒアリング及び質疑応答

①「確かな学力」育成事業

「確かな学力」育成事業について説明を行った。主な論点は以下の通り。

・「としまっ子の学び vol.1」はとてもいい資料だと思う。
・学びに向かう力の育成と成果指標の整合性に課題を感じる。全国学力・学習状況調査を成果指標とすると、学びに向かう力の育成の本質を捉えきれない場合があるため、別の指標にすべきではないか。
・随所に「目当てとまとめの一体化」という言葉があるが、学習指導要領を踏まえると、「目当ての振返りの一体化」の方が合っているのではないか。目標設定を子ども自身が行い、それを振返りと結びつけて自己評価できる仕組みを強化することが望ましい。
・成果欄に教員の授業力向上の取組が記載されているが、教員自身の気づきや意欲を反映するだけでなく、具体的な事例や件数・割合といった客観的データに基づいて表現する方が、より説得力が高い。
・教員の研修後の振返りについて、例えば研究発表会の度にアンケートをとった後の動きも入れてほしい。
・能代市との交流は長年続いているが、蓄積に対して、成果物が少ない。学力日本一の秋田から学ぼうということで、能代市との交流が始まった。交流開始当時にあった能代市の「秋田の底力」という冊子と比べても、成果物が少ない。ノウハウはあるので、それを広めていく努力をしてほしい。
・能代市の授業には、子どもたち自身がうねりを起こすような授業の流れというのがあった。豊島区の中でも、そのような動きはないか。また、実際に学校でどのような変化が起こっているか。
・最近は能代市と子ども同士の交流はしていないか。
・現行の指導要領のレベルを実現する上で、教員の授業改善を通して子どもに主体性を身に付けさせるのは、非常に有効な手立てであり、「としまっ子の学び vol.1」は非常に良い資料だと思う。ただ、基礎学力を徹底させるのであれば、何を確かな学力として付けていくのか焦点化して、さらなるブラッシュアップをしてほしい。
・以前は学力調査の経年比較に基づいた授業改善プランがあったが、やり方を変えた理由は何か。
・i-check を見ると、協働的な学び合いについては課題がある。分析シートに、今後、豊島の子どもたちにとっては、協働的な学びも必要だと書き込んではどうか。
・i-check について、学年が変わって伸びているところも示すとプラスの成果になるのではないか。
・能代市では、子どもたちの理科や社会の家庭学習の様子がわかるようなものが廊下に展示されており、主体的な学びに取り組んでいるというところが、成果として見られた。豊島区でも活かしてほしい。
・課題への対応方針に、ICT を活用したことが挙げられている。コロナの時にタブレットを配布し、Wi-fi を常時繋ぐという環境整備をしてきたので、それをどのように活かしていくのか、という点を「課題」と「次年度以降の方向性」に具体的に入れてほしい。
・SIM まで入った使い勝手のいい端末をどのように使ったら推奨モデルなのか。協働的学びの中で、各教科等にあわせたモデルをつくってほしい。

②日本語指導事業

日本語指導事業について説明を行った。主な論点は以下の通り。

・マンツーマンの学習支援事業の成果はどの程度なのか。また、中学校卒業後の進路データを見ることによって、外国人の子どもへの対応の成果を見るという見方はないか。
・政治的には、外国人の受け入れなどいろいろな考え方があるが、教職に就く者としては、目の前にいる子どもたちは、日本人であろうと外国人であろうと誰一人取残さないで育てていくという多様性を包摂した考え方が、これからも必要だと思う。日本文化を尊重してもらえるような教育をしていくためには、外国の方々をしっかり受け入れて、しっかりと教育していくことが、とても重要なので頑張ってもらいたい。
・お金をかけて授業中に寄り添う人を配置する学習支援は凄いことだと思うので、ぜひ成果として入れてほしい。
・バーチャルラーニングプラットフォームの開催回数に対して、参加人数が少ないのではないか。
・受験の手続きとなると、2 時間の通訳派遣では足りないという意見はきていないか。
・指導員が巡回する形となったのは凄いことだと思うが、成果はあるか。特に担任との連携については、「成果」欄にもっと入れていいのではないか。
・日本語指導学級は何学級、何校程度設置されているか。
・日本語指導学級の先生への研修はどのように行われているか。
・多文化共生の意識が向上した現在において、日本語学級の在り方も色々あり、中でも日本語学級の先生の力は大きいと思うので、現代的な課題への対応が図れるような研修へ内容をバージョンアップしてほしい。
・年に何度か、指導課として日本語指導を見に行くのか。
・活動指標は人数や時間ではなく、充足率のようにどれだけ満たせたかということが指標になると思う。どうして人数や時間を指標に設定したのか。
・通訳の数は限られているため、話したことを瞬時に文字化する AI コミュニケーションツール等の使用を検討できないか。また、ポケトークは配られているか。
・「次年度の方向性」について、抽象的な表現が多いので、具体的な文言を入れてほしい。
・日本語指導学級における道徳教育的な部分や、日本の良さを教えている点が、大変素晴らしいことだと思う。日本語学級の先生にも頑張ってもらうとともに、教育委員会としても支援をしてほしい。

3. 閉会

提出された資料等	【資料1】令和6年度教育に関する事務の点検 事業分析シート「「確かな学力」育成事業」 【資料2】令和6年度教育に関する事務の点検 事業分析シート「日本語指導事業」